



テストなんてなければいいのに

今年も東京ビッグサイトで「教育IT エキスポ」という展示会がありました。この塾でもiPad等は使っていますがあくまで便利な点があれば利用しようというスタンス。情報を得るため毎年参加していますが、年々進歩のスピードがアップしているように感じます。またIT技術を教育に応用しようという分野もどんどん広がってきているようです。この展示会にはコルグ社がアメリカのlittle Bitsと提携して開発した電子回路組立キットを出展していました。もともとシンセサイザーで有名なコルグ社とはN先生を通じてご縁があるので、この塾の「おもしろ理科実験・夏休みバージョン」でワークショップをしてもらえる予定です。音楽好き・工作好きにとっては本当に楽しいイベントになると思いますのでどうぞご期待ください。

さて、高校生のテスト対策が終わって今度は中学生の中間テストが近づいてきました。特に中1にとっては初めての経験なので不安が大きいかもしれません。そして「テストなんてなければいいのに」という声も学年に関わらず聞こえてきます。でも考えてみてください。例えば試合や演奏会や発表会があるから、それに向けて練習を頑張れます。普段は小さく分けて練習していたことを全体にまとめ、真剣にやってみるまたとない機会な訳です。同じことがテストにも言えます。習ったことが確実に身についているかどうかを試す機会ということはみなさんもお分りですね。

しかし最近教材関係の方と話していると、習った通りの問題がそのまま出てくるテストプリントの需要が中学でも増えてきているとのこと。これでは小学校でたいていの人が100点をとれてしまう確認テストと同じです。これを「身につけている」と言っているのでしょうか。習ったことを自分の思い通りに使いこなすには全く同じパターンの問題だけこなしても対応できません。角度を変えて質問されても答えにたどり着けるかがポイントです。もちろん学校も塾もテストを出す側の先生がそののこのところをしっかり認識しなければとも思いますが…。